

(議題 1) 第 3 回の審議内容のまとめ

- ・ 第 3 回荒瀬ダム撤去フォローアップ専門委員会における意見等への対応状況

■第3回荒瀬ダム撤去フォローアップ専門委員会における意見等への対応状況

No.	項目	発言委員	意見(要旨)	現在の対応状況等
1	微細土砂の生物への影響	角委員	・微細土砂について、出水の前後で時系列的に調査することが重要である。	<p>・事業の影響の評価を目的として、工事前の冬季と工事後の春季に、微細土砂の調査(石礫上の微細土砂量、強熱減量、クロロフィル a、フェオフィチン)と付着藻類の調査を実施している。 【説明資料2 P.30～55 参照】</p> <p>・また、出水前後の河床材の変化把握等を目的に、ダム直下における物理環境の変化を把握するために「物理環境の定期モニタリング調査」を実施した。 【説明資料2 P.56～58 参照】</p>
		篠原委員長	・生物にどうかという視点で調査すべき。調査の時期、方法を工夫してほしい。	
		藤田委員	・表層の河床材料の調査は実施しているか確認する。また、河床材料(粒度組成)調査は、河川工学的にきちりやることにこだわらず、生物調査とセットでやっておくことが重要。簡易な方法もあるので、うまくやってほしい。	
2	生態系とりまとめ	森委員	・各項目を分断的に取っては関係が見えてこない。生息環境としての物理環境を含めた生物間の相関図を作る必要がある。	<p>・箇所別及び縦断方向の生態系取りまとめ図を作成した。 【説明資料2 P.30～55 参照】</p>
		篠原委員長	・ある程度仮説を立てて調査した方がよい。	
3	鳥類のとりまとめ方	森委員	・魚食性種と砂礫産卵種については、重複するものもある。種数に関しては、兼ねれば実際の種数は少なくなる。このような図はどのような意味があるのか。	<p>・魚食性種と砂礫産卵種で共通する種は出現していない。扱うテーマが異なるので棒グラフの積み重ねではなく、別個のグラフにする。 【参考資料 P.33 参照】</p>
4	カメラ等による土砂動態のモニタリング	柏井委員	・各調査地点で、土砂の状態がどうなっているか出水直後に押さえることや写真を撮るなど、計画として持ってほしい。	<p>・測量機能付き河川監視カメラの設置及び定点静止画の情報発信について検討し整理した。 【説明資料2 P.20 参照】</p>
		角委員	・流水区間で地形変化するところと、下流で一時的に土砂が堆積するところを定期的に写真を撮られるとよい。	
5	河床変動計算	藤田委員	・既に色々変化が起こっている中で、これらの検証はするのか。平面的な砂州の出来具合の検討は以前しているので、それで今の事象が説明できるか整理してほしい。	<p>・シミュレーションを行い整理した。 【説明資料2 P.10～19 参照】</p>
		藤田委員	・すでに起こっている変化について、それを表す端的な数字みたいなものを出しながら、具体的に既に起こった事象との関係を少しずつ比較していただきたい。	
6	土砂関連の用語の定義	角委員	・流砂量は堆積したものが出ていくので、排砂量あるいは土砂流出量であり、定義をしっかりと整理してほしい。	<p>・測量結果と併せて次回の委員会で報告する。</p>
7	アユ等の魚類に関する補足情報	大和田顧問	・ゲート開放で流水になり、鮎の稚魚にどのような影響が出ているのか。	<p>・漁業統計や他河川の情報を収集整理すると共に、新たな産卵場等に関して漁業関係者に聞き取り調査を行い、平成 24 年度の整理結果と併せ、次回の委員会で報告する。</p>
		角委員	・百済木川で回遊魚が増えているが、ゲート開放によって、下流から遡上する魚類がいるのか。	
		森委員	・同じ手法で、付着藻類やアユの量についても、近隣の河川と比較することも重要である。	
		森委員	・優先的に検討しなければいけないのは、上流の流水回復区間がどうなるのかということである。古地図を参考にして、産卵場などが予測できるような調査をお願いしたい。	
		篠原委員長	・百済木川の流水区間で、はみ跡は観察されているのか。	

No.	項目	発言委員	意見(要旨)	現在の対応状況等
8	濁水処理	森委員	・濁水処理施設については、きちんと処理されているかのモニタリングはされるのか。	—
		篠原委員長	・濁水処理は環境基準ではなく、もう少し自主規制してシビアにやった方がよい。	
9	地域振興	森委員	・地域の方々にイベントなどをされていないか。	—
		篠原委員長	・長良川などは、川を中心とした町おこしなどをされているので、それらを見習って検討されたい。	
10	底生魚の連続性調査	森委員	・連続性の確認調査は、分析対応できる種数、個体数があるのであれば、回遊魚と同時に底生魚も含めて比較してはどうか。	・熊本大学や九州大学等の他の研究機関の研究状況に関する情報を収集した上で、対応可能か検討する。
11	空撮写真の説明	柏井委員	・空撮写真で、平成16年の水位低下時との比較で、新しい寄州が見えない。説明が丁寧でない。	・他の景観写真と併せ、今後の委員会で報告する。
12	水位低下設備における回遊魚の移動可能性	大本委員	・水位低下設備に興味を持っている。流速や河床高は、アユが遡上できるような環境なのか。	—
13	藍藻類の調査	森委員	・尺アユ日本一の川にしたいが、付着藻類の問題として、藍藻類についての調査を綿密にやっていただきたい。	・付着藻類については、種の同定や細胞数、強熱減量などのデータを採取している。
14	資料の作り方	藤田委員	・資料の作り方で、調査結果が基本だが、事実関係と評価に踏み込んでいる部分が混ざっているため、工夫してほしい。	・結果と評価を整理して記載した。